

シリーズ

東久留米の学校史

その7

新しい教育の風2

浄牧学園女学校の開設や自由学園の移転は、昭和初期の久留米村にとって大きな出来事であり、新しい教育の風が静かな農村地帯に吹き始めました。昭和7年（1932年）には拓殖大学総合運動場ができ、10年代に入ると東京府豊島師範学校の豊島成美荘や東京府立久留米学園が完成し、東京府立久留米青年学校も創設されるなど、一層学園村の様相を呈するようになっていきました（前号地図参照）。今回は、豊島成美荘と久留米学園、拓殖大学総合運動場をとりあげます。

〈豊島成美荘〉

西武池袋線東久留米駅北口を出て、線路に沿って清瀬駅方向に5分ほど歩く

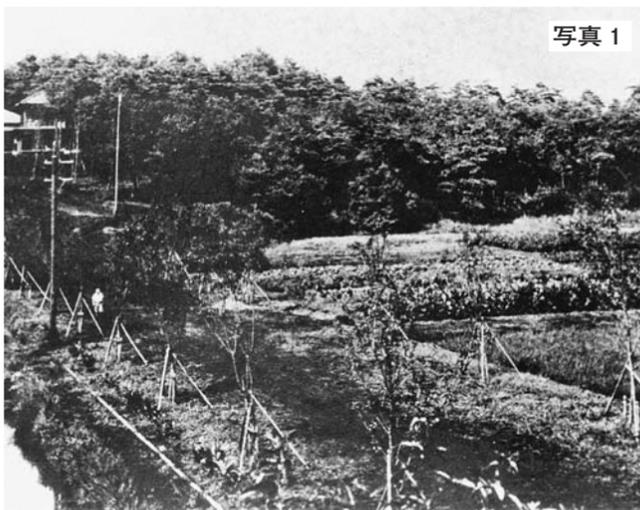


写真1

↑豊島成美荘(昭和11年撮影・『豊島成美荘』豊島師範学校刊、『光の交響詩』より)

と、右手に成美教育文化会館や豊島なでしこ幼稚園が見えてきます。さらに黒目川を渡ると東京学芸大学附属特別支援学校があり、その北側には広い雑木林が残っています。この一帯が昭和11年（1936年）9月に開設された豊島成美荘の場所です。

明治41年（1908年）

に北豊島郡黒目村（現豊島区池袋）に教員の養成を目的として創設されたのが東京府豊島師範学校で、明治44年には附属小学校も開校しました。師範学校第5代校長の成田千里氏は、自然環境の中で学ぶことの重要性を説き、海・野・山に研修施設（道場）をつくることを提唱し、千葉県勝浦に至楽荘（海）、神奈川県箱根に一字荘（山）、そして野の施設として久留米村大字小山（現水川台一丁目）に成美荘を開設したのです。

豊島成美荘は、総面積約

2万5千坪（8・3ヘクタール）に及び、黒目川の周囲には水田や畑地、農場、果樹園、養魚池、雑木林等が広がり、成田校長の「自然的環境に恵まれた純農村に於いて、教育道場としての農場を建設し、単に作物を栽培し家畜を飼育するが如き、所謂農場経営のみに重点をおくことなく、自然の裡に魂を練る生活道場たらしめるよう経営する」との趣旨に基づいて開設されたもので、都会の子どものちが豊かな自然の中で心身を鍛えることの大切さを未来の教員に教える施設であることを強調しています

『豊島成美荘』（豊島師範学校刊）や講演等による。

北側台地の林間には成美荘の拠点として、167坪（551平方メートル）の「養気閣（ようきかく）」と命名された木造平屋の宿泊所が建設され、師範学校の生徒や附属小学校の児童が泊3日の日程で使用しました。1年に2回順番が回っていましたが、田植えや秋の収穫期には多くの人が参加して賑わったそうです（写真1）。

現在この地は豊島師範学校の後継である東京学芸大学が所管し、附属特別支援学校となっています。また、旧農場の一部には豊島



写真2

↑久留米学園(昭和11年撮影・『久留米学園と史蹟』より)



写真3

↑拓殖大学総合運動場跡(昭和22年米軍撮影空中写真・国土地理院)。右方向が北。中央が旧総合運動場、右下が旧府立久留米青年学校。

修練会（昭和17年設立・公益財団法人）が昭和42年（1967年）に成美教育文化会館を建設し、至楽荘や一字荘（長野県茅野に移転）の運営を現在でも行っています。成美教育文化会館は、平成9年（1997年）にホールやギャラリーなど最新の設備をもつ近代的な施設として新築され、市の教育センターも併設されています。豊島なでしこ幼稚園入口前には、成美荘開設を記念して植樹されたイチヨウの木が今でも残っており、「東久留米の名木百選」に選ばれました。

昭和11年（1936年）

7月に身体が弱い児童のための療養教育施設として久留米村大字野火止（現野火止二丁目）に東京府立久留米学園が開園しました（昭和18年から都立）。

「本園は身体虚弱なる児童を収容し健康増進を図り併せて尋常小学校の教科を修めしむるを以て目的とす」と開園時の学校規定にあることから、健康回復のための適地として、恵まれた自然環境をもつ久留米

村が選ばれたものと考えられます。約2万3千坪（7・6ヘクタール）の広い敷地に本館（282坪）と食堂があり、さらに黒目川に下る南斜面を利用して、9棟の寮が3棟ずつ階段状に並び、全ての寮が日当たりに配慮して建てられました（写真2）。全寮制で当初の定員は120人。尋常小学校三年生以上を対象となりましたが、教科の内容は普通の小学校とほとんど同じでした。

戦時中の昭和19年（1944年）

4月以降は学童疎開の受け入れや軍関係の施設として使われたため一時学園活動を停止しました。昭和22年（1947年）からは、一方昭和10年代はますます軍事色の様相が濃くなり、日本は長い戦争へと突入し、日増しにその影響が教育環境にも及んでくるのです（以下次号）。

（本文は山崎 丈・市文化財保護審議会委員による）

詳しくは生涯学習課文化財係 ☎472・0051へ。

くるめには未来の先生が学ぶ学校もあつたんだね。さて、下の記事は新しく配属された先生たちの紹介だよ！



新しい先生、ようこそ東久留米へ！

今年の4月以降に、市立小・中学校に配属されている先生を紹介します（敬称略・行政順）。

学校閉庁日を実施します

～8月13日から17日までの5日間

市教育委員会では文部科学省から出された中教審の緊急提言に基づき、学校の働き方改革の一環として、平成30年度から、全校一斉に「学校閉庁日」を実施します。

「学校閉庁日」は学校業務閉散期となる8月中旬に、夏の省エネルギー・省資源の推進とともに、教職員の健康増進と休暇取得促進を図るため、市立小・中学校の閉庁日を設けるものです。この期間、教職員は学校に出勤していません。今年度の閉庁日は、8月13日（月）から17日（金）までの5日間です。

※やむを得ない場合を除き、部活動も原則として実施しません。学校閉庁日における緊急時の連絡先は指導室 ☎470・7781（午前8時30分～午後5時15分）へ。



- | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |